

文部科学大臣表彰を受賞

4月23日（水）、「子どもの読書活動推進フォーラム」が東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、その席上で富士見小学校（工藤志津子校長）が読書活動優秀実践校として渡海紀三朗文部科学大臣から表彰を受けました。

この表彰は、読書を推進する活動が顕著に優秀と認められる学校に贈られるもので、平成18年よりPTA図書委員（写真右、前PTA図書委員長の工藤環姫さん）の皆さんが、朝の読書の時間に読み聞かせを実践してきたこと、また、PTAの廃品回収で得た資金を活用して、図書の管理システムを購入して活用していることなどが認められ表彰となりました。写真中央は、4月から図書委員長を務める出町遼太君（6年）。



△今年も図書担当の先生方と一緒にがんばります



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを
役場企総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。（☎22-2111 内線263）

大木が鶴の卵に生まれ変わる

5月12日（月）～16日（金）、芸術家 向井勝實（むかい かつみ）氏（栃木県那須市在住）を招いて、児童と共同で行う彫刻づくりの授業が富士見小学校で開かれました。

彫刻に用意した木は、幹の直径が1.5メートルもある樹齢200年～350年の青森ヒバ。それを向井先生がチェーンソーを使い輪郭を整えてから、児童がノミと木槌を持って5日間にわたり先生の指導のもと彫っていきました。作業が終わる頃になると、大木が右の写真のような「つるのたまご」の彫刻に生まれ変わり、児童たちは大喜び。夢のある授業でした。この「つるのたまご」は、夢のモニュメントとして校庭に設置されています。



△青森ヒバの大木が「つるのたまご」に生まれ変わったよ

花だんづくり、ありがとう！

5月9日（金）、鶴田町生活改善グループ協議会（小野寺のり子会長）の皆さんが、豊明館前の花だん整備を行いました。この奉仕作業は、生活改善グループ結成当初から、年中活動として取り組んでおり、豊明館前の花だん整備は、すでに10年以上も前から行っています。この日は、早朝5時より作業を開始し、皆さん花だんの整備は手慣れたもので、愉快的話をしながらも、1時間も経たないうちに素晴らしい花だんを作り上げました。美しく、花や緑があふれ、心豊かな人々が集う鶴田町は、こういう方々の力によって支えられていることを実感させられました。本当にありがとうございました。心からお礼を申し上げます。



△皆さんの奉仕活動が住みよいまちづくりの糧となっています



△泥んこになりながらも花を丁寧に植える園児たち

園児たちが一生懸命植えました

5月15日（木）、管内の保育園などの園児約150人の小さな手によって、たくさんの花が富士見湖パークの花だんに植えられました。はじめにききょう児童館の5歳児5人が「一生懸命お花を植えて、きれいな富士見湖パークをつくります」と元気いっぱいに誓いのことば。その後、園児たちは地区の人たちや五所川原農林高校の生徒と一緒にペコニア1万本を手が泥んこになりながらも一生懸命植えていき、800平方メートルの花だんを赤やピンク、白といった鮮やかな色彩に彩っていききました。この花だんは、秋までここを訪れる方々を和ませてくれます。

永久の愛を誓い記念植樹

5月24日（土）、平成20年度の結婚記念植樹祭が行われ、新婚夫婦たちが鶴寿公園内に記念樹を植樹しました。

34回目を迎えた今年は、昨年度中に婚姻の届け出をした50組のうち15組が出席。不死不滅といわれる「メタセコイヤ」の根元に仲良く土をかけ、木と共に夫婦としても年輪を重ね、成長していくことを誓いました。

また、同会場で、中野町長から難を転ずるとされるナンテンの苗木と記念品が贈られると新婚夫婦を代表して下山康祐さん、愛さんご夫妻が謝辞を述べられました。みなさま末永くお幸せに。



△照れながらも大切に記念樹を植える新婚夫婦